

<<東北魂>>を鼓舞する
電子新聞

発行所 株式会社遊無有

〒207-0005
東京都東大和市高木3-315-1-2-2
http://www.yumuyu.com/
e-mail:yumuyu@wj8.so-net.ne.jp

東北復興

Rising up, TOHOKU!

2016年(平成28年)3月16日 水曜日

無料

第46号

毎月発行

創刊2016年(平成28年)3月16日 水曜日

東北3県の震災孤児と遺児の状況

	宮城県	岩手県	福島県	合計	
震災孤児	126名	94名	21名	241名	
養育内訳	施設入所	2名	0名	2名	
	親族等による養育	124名	94名	21名	239名
	合計	126名	94名	21名	241名
震災遺児	902名	481名	139名	1522名	

2012年10月現在 厚生労働省(各県資料)

年月日	内容
2011年3月11日	東日本大震災。東北3県で震災孤児は241名、片親を亡くした子どもは約1500名。震災孤児は、宮城県で126名。
2012年6月	福岡の支援を受けて、NPO法人「子どもの村東北」設立総会、同年10月許可。
2013年1月現在	個人正会員30名、支援会員130名。人材育成研修会を実施している。
2014年12月	「子どもの村東北」の開村!!

「子どもの村東北」の経緯

すべての子どもに愛ある家庭を 「子どもの村東北」村長が語る 3・11震災孤児241名および 遺児1522名のその後の状況と課題

「子どもの村東北」村長

今野和則氏



前宮城県立石巻支援学校校長。宮城県行政職を経て公立小学校教員。宮城県教育庁特別支援教育室長補佐、気仙沼支援学校校長、宮城教育大学付属特別支援学校副校長を歴任。東北福祉大学で後進を指導中。石巻市出身。

「子どもの村東北」は、東日本大震災で親を失った子どもたちをはじめ、さまざまな理由で家族と暮らせない子どもたちを家庭的環境のもとで養育する里親の村です。

「子どもの村東北」とは

村は、日本で最初の子どもの村である福岡の支援を受け、仙台市から借り受けた太白区茂庭台2丁目に建設し、2014年12月に開村しました。村には家族の家3棟(将来5棟)と、これを支えるセンターハウスがあります。家族の家では、育親(里

東北3県の震災孤児と遺

震災孤児の状況と 悲しい事件

親)が子どもたちと一緒に暮らしています。センターハウスには、保育士、臨床心理士、小児科医、社会福祉士などの専門家がいて、子育てを支えています。地域の中で、子どもが自立するまで長期的に育てていくこととなります。現在のところ、震災孤児を含めた長期養育の子ども5人が生活しています。その他に親族と暮らす震災孤児を含めた12人を、一時的に受け入れました。子どもの村の活動の基本は、設立総会で謳った①子どもたちを永続的に支えること②子どもの権利を尊重すること③専門家による支援体制を充実させることの3点です。家族と暮らせない子どもたちを、主に施設養護で育ててきた日本も、国連から3度の勧告を受けたこともあり、社会的養護の体制を家庭的養護を増やす方向に転換しています。「子どもの村東北」は、「子どもの村福岡」(日本初の「子どもの村」として、2010年福岡県福岡市に誕生)と連携しながら、家庭的養護のモデルとして活動していくこととなります。

開村 子どもの村東北



飯沼一宇理事長(元石巻赤十字病院院長)あいさつ

児の状況は、上掲の表のとおりです。

多くの震災孤児は、親族等に養育され、施設に入所している孤児はごく少数です。諸外国であれば路頭に迷いかねない災害孤児・遺児たちが、親族の手で保護され、生活を営んでいるという現実が、美談として報道されているとも聞いています。ところが、2011年10月に、「震災孤児の悲しい事件」(2011年10月9日(日)の河北新報記事から)として報道された出来事がありました。

『両親を津波で失った福島県の10代の少年が兵庫県の親類宅に引き取られた。少年は部屋に閉じこもって自傷行為を始めた。連絡を受けた田中准教授は急いで

感情の記憶は よみがえりやすい

病院に連れてくるよう指示したが、少年はそのまま親類宅から逃亡、保護された。「福島に帰りたい」。そう訴える少年は福島県の親類宅に移されたが、その後、両親の遺骨を抱いて海に身を投げた。さらに、上掲の表で、両親のどちらかを亡くした震災遺児が1500名を超えていることも注目すべきです。

心理の専門家は、よみがえりやすい感情の記憶の引き金になるものとして、以下をあげています。

- ① 同じような状況……余震、風呂、津波警報
- ② 衝撃的体験で見たもの



「子どもの村東北」全景



ロバート・キャンベル東京大学大学院教授スピーチ



村の入り口でのテープカット

……同じ場所、同じ景色、似たような景色
 ③ 衝撃的体験で聞いた音……大きな音
 ④ 似たような雰囲気……寒さ、雪
 ⑤ 記念日反応……3月11日
 また、別離を体験した児童は、クラス替えや卒業式でも、悲しい感情の記憶をよみがえらせる場合があるとのこと。

震災孤児への支援と課題

宮城県は、震災孤児等への支援として、
 ① 経済的支援(みやぎ子ども育英基金による就学等支援事業)
 ② 精神的支援(児童相談所の支援)
 を行っています。また、里親会による支援や民間団体(NPO法人等)による支

援も行われています。支援課題としては、以下が挙げられます。
 (1) 養育者の約半数は高齢の祖父母
 ① 祖父母も親族を亡くしている
 ② 子ども心の傷への対応に苦慮
 (2) 児童相談所や里親会が
 ① 支援を求めない親族里親
 ② 個人情報保護のため情報が少ない
 さらに、経済的支援はあるが精神的支援は必ずしも行き届いていないという現実があります。

『震災孤児を養育する親族里親の現状調査と支援のあり方に関する検討』

そこで、子どもの村東北では、2014年1月に、

三菱財団助成事業として、標記の調査を実施しました。以下に、その概要と考察を紹介いたします。

1 概要

東日本大震災において、震災孤児となった児童のほとんどは親族に育てられているが、その実態や課題は明確ではない。震災孤児を養育している里親がどんなことに困り、どのようなことを望んでいるか把握するため、東北3県の児童相談所の協力を得て、2014年1月に親族里親を対象としてアンケート調査を実施した。

東北3県から72件の回答が得られた。調査結果を分析し、親族里親の現状や課題をまとめ、支援のあり方を検討した。

震災直後は精神的に不安定な児童が多かった。その後の親族の努力や児童相談

所等の支援により、親族も児童も、全体的に落ち着いてきている、という調査結果であった。しかし、震災から3年近くが過ぎてなお、精神的に不安定な児童がいることも判明した。また、親族家庭の経済的問題が大きいことが特に目立った。代替養育を希望する里親はほとんどいなかったが、一時的に児童を養育し里親が休息できるレスパイトを希望する里親はいた。

2 考察

(1) 震災で親を亡くした児童と親族里親について
 今回の調査分析対象里親72名の内、半数以上の42名が祖父母であった。60歳以上の親族里親38名が育てている里子は50名で、その内12歳以下の子どもは15名いた。養育の心配をしている里親がいた。里親の高齢化に伴い、児童を養育できなくなるときは、子どもの村東北は積極的に受け入れる予定である。また、経済面での生活について不安を持っている親族里親が多かった。

(2) 子どもたちの様子
 震災直後は片親や両親を亡くした子どもは衝撃的体験と大きな喪失体験を味わい、引き取った親族から見ると大きな問題行動が目立った。震災後、親族の努力、児童相談所や学校等の濃密な支援により、多くの子どもたち

が立ち直っていった。しかし、震災から3年近くが経っても精神的に不安定な児童も見られた。これは時間の経過とともに立ち直れる子どもばかりではないことを示しており、支援が必要などころには、長期的展望をもって行っていく必要があるということだろう。

(3) これまでの役立った支援と今後必要な支援
 支援は大きくは二つに分けられるだろう。物質的支援と精神的支援である。物質的支援は、金銭的支援が役立ったと答えている方が多かった。また、精神的支援では、「児童相談所の対応や支援」「学校に配置されている臨床心理士によるカウンセリング」などの記述があった。

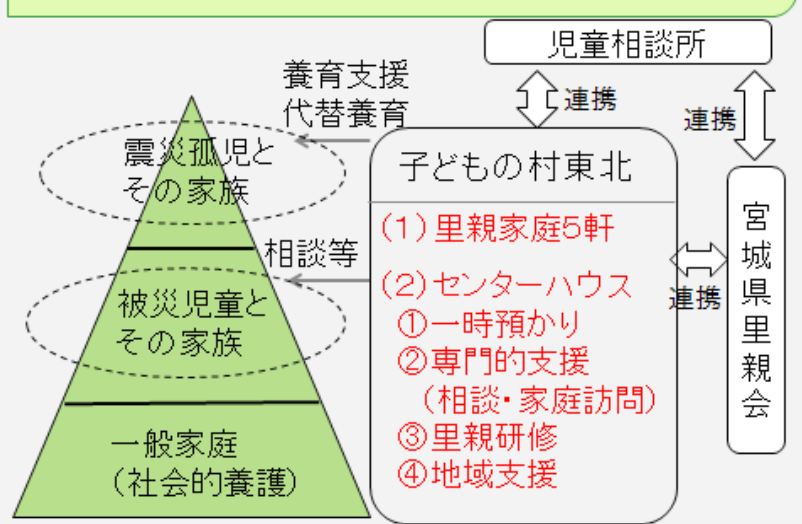
今後必要な支援としては、「サロンのような里親の集い」「里親が2、3日休めるようなショートステイのような制度」などがあつた。

子どもの村東北の役割

この報告書の結びで、「子どもの村東北」の役割を考察しています。以下です。

『子どもの村東北は、東日本大震災の後、子どもの村福岡の支援を受けて2012年6月10日に設立されたNPO法人である。国際NGO法人「SOS子

子どもの村東北の被災児童とその家族への支援



震災孤児を養育する親族里親の現状調査と支援のあり方に関する検討

て開村後約1年を経て、幸いにも地域の皆さんの暖かい応援があり、社会的養護に関する研修会を開いたり、地域の方々を招いてのチャリティコンサートを開催したり、また子どもたちと一緒に学習活動や災害復興支援の創作活動を行ったりと、多彩な催しも行えました。1月で、見学者を含めた来村者は2000名を超え、多忙な一年ではありましたが、「子どもの村東北」の理解と支援が広まりつつある手応えを感じています。

「子どもの村東北」は、NPO法人で、多くが企業や個人からの支援に依存しています。今後とも継続的なご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 子どもの村東北 発行
 公益財団法人 三菱財団助成事業

『震災孤児を養育する親族里親の現状調査と支援のあり方に関する検討』



刺身と焼き牡蠣・・・日本橋

二月の三陸酒海鮮会は、十八日(木曜日)に日本橋開催、二十七日(土曜日)に渋谷開催とほぼ連チャン開催となりました。

**もっと多くの人々に知って欲しい
うまい東北地酒と三陸の海鮮**
十三浜のワカメ出現でサプライズ
第16回 三陸酒海鮮会の日本橋開催
第18回 三陸酒海鮮会の渋谷開催



十三浜のワカメを使ったギョウザ・・・渋谷

山の料理が出ました。東北地酒の方は、青森の「作田」、岩手の「七福神」、宮城の「墨廻江」、福島の大七生酛の四種。どれもこれもおいしい。



地酒ラインアップ・・・日本橋

渋谷で出た東北地酒は、青森の「八仙」、宮城からは「一の蔵」と「男山」、岩手の「浜千鳥」の四種。こちらもおいしい。



地酒ラインアップ・・・渋谷

た。平目、アワビ、カレイ、タラ、ホタテ、イカ、ゲン。なかなか食べられないラインアップです。他にきんぎ鍋やささかまぼこなど多数出て、お腹いっぱいになりました。

サプライズの宮城県石巻市北上町十三浜のワカメを使った料理二種。渋谷開催では、突然のサプライズに、筆者はあわや涙が出そうになりました。というのも、宮城県石巻市北上町十三浜産のワカメを使った料理が二種類出現したことでした。

筆者はかつて、北上町十三浜の郷土芸能である「大室南部神楽」復活活動を支援したことがあります。さらに、その開催日少し前、その「大室南部神楽」復活の経緯がBSテレビで放映され、筆者の高校後輩家族が出ていました。



【生ニシン料理完成・・・今回、入手したのはたまたま白子と数の子が入った2匹の生ニシンでした】

第19回 水産業再興のための料理レシピ紹介

白子と数の子の両方が入っている【生ニシン料理】

春が旬のニシンには脂がのっています。小樽沿岸には群衆で押し寄せています。スーパーにもたくさん生ニシンが並んでいます。梅干しはお好みでどうぞ。水揚げが多い旬に一度たべてみてはいかがでしょうか。



郷土料理愛好家 松本由美子氏

一簡単レシピ

【材 料】 生ニシン 2匹、梅干し 1個、ネギ 1本、水 300cc、酒 50cc、味醂 大 3、醤油 大 2

【作り方】 ① 生ニシンは、内臓をとり、鱗もとって、3等分にして綺麗に洗います。② 圧力鍋に水、味醂、酒、梅干し、醤油を入れ良く混ぜます。③ 調味料に火を通し、生ニシンを投入したら、圧力鍋で30分煮ます。火を止め、圧力が抜けるまで放置します。④ 圧力が抜けたら、蓋をはずし魚を盛り付けたら、鍋を再び火にかけます。とろっとろみがついたら、魚にかけます。⑤ ネギはぶつ切りにして、焼きグリルで焼き目が付くまで焼きます。お魚に添えて完成。

* 圧力鍋を使い、煮てみました。とろける旨さに濃厚ながらさっぱりとした梅の後味で。煮汁でご飯が、お酒がとまらぬ美味しさ。梅干しは、昨年の手作り梅を一個使いました。

「仙台防災枠組」を踏まえた防災対策を

5回目の「3・11」

「3・11」と呼ばれるようになって5回目の3月11日がやってきた。「3・11」の前後は毎年、震災に関する新聞記事、特別番組、関連イベントが増える。それはそれで、震災への関心を喚起し、防災に対する意識を高める効果はあると言

えるが、当然のことながら震災やそれを含む自然災害についてはこの日にだけ考えればそれで済むものではなく、年間を通して継続し

て考え、アクションを起こしていくことが重要である。後で紹介する「仙台防災枠組2015-2030」で指摘されている。世界ではこの10年間に、災害の発生によって、70万人以上が死亡し、140万人以上が負傷し、約2300万人が住む家を失い、15億人以上の人々がさまざまな形で災害の影響を受けた。経済的損失は合計で1兆3千億ドル以上にも上ったという。自然災害に対する防災・減災は不断の努力が必要である。東日本大震災を経験した私たちはとりわけ、その経験を踏まえた防災・減災対策について引き続き考えていく必要がある。

「仙台防災枠組2015-2030」の採択

そうした中で昨年、ひと際重要なイベントが昨年4月、仙台市内で開催された。第3回国連防災世界会議である。本会議に世界187カ国から6500名超の関係者が、パブリック・フォーラムには行政、研究者だけでなく一般市民

も多数足を運び、実に延べ15万人超の参加者が集った。参加国数やその参加者数はもちろん、全体の参加者数が15万人にも上ったというのは、日本で開催された国連関係の国際会議の中でも史上最大級のことである。このことは、「防災に対する国際社会の政治的なコミットメントを得て、防災の主流化を進める上で、大きな成果となった」と評価されている。特筆したいのは市民参加の多さで、未曾有の震災体験を踏まえ、防災に対する並々ならぬ意識の高さが窺える。

この会議では「仙台防災枠組2015-2030」が採択された。国連防災世界会議は過去3回、いずれも日本で開催された。1994年に第1回国議が横浜で行われ、初の国際的な防災・減災の指針となる「より安全な世界に向けての横浜戦略」が策定された。第2回は阪神淡路大震災を経験した神戸で2005年に開催された。この時はさらに具体的な指針として「兵庫行動枠組2005-2015」が採択され、2015年までの10年間に防災・減災に関して各国が達成すべき目標と重点行動が設定された。

期待される成果は、今後15年間で「人命・暮らし・健康と、個人・企業・コミュニティ・国の経済的・物理的・社会的・文化的・環境的資産に対する災害リスク及び損失を大幅に削減すること」で、この成果を実現させるためのゴールは「ハザードへの暴露と災害に対する脆弱性を予防・削減し、応急対応及び復旧への備えを強化し、もって強靱性を強化する、統合されたかつ包摂的な、経済的・構造的・法的・社会的・健康的・文化的・教育的・環境的・技術的・政治的・制度的な施策を通じて、新たな災害リスクを防止し、既存の災害リスクを削減すること」とされている。

そしてその進捗状況の評価のために、「災害による死者数の2020年から2030年の平均値を2005年から2015年までの平均値に比して低くする」など7つの「グローバルターゲット」を設定し、また、枠組の実施に当たったの基本的な考え方を「各国は災害リスクを防止し、削減する第一義的な責任を有する」など13にまとめ示している。

重要なのは、こうした各国の防災・減災に向けての行動指針に「仙台」の名が冠されていることである。既に参加国の中にはこの枠組に基づいて自国の防災・減災計画を策定する動きも出ているという。そうした国々の中には、この枠組にある「仙台」に対して関心を持つ人も出てくるに違いない。さらにその中には、実際にこの枠組が採択された仙台に実際に足を運んでみる人もいるに違いない。そうした時に採択された仙台を含む、震災からの復興を目指す東北で、この「仙台防災枠組」が知られていない、あるいは活用されていないという状況があったとしたら、かなり失望されるのではないだろうか。開催地、そして開催地のある地域として、私たちは、他の地域よりもさらにこの「仙台防災枠組2015-2030」に関して理解を深め、実際に行動に移して

いく責務があると思うのである。とは言え、外務省にある「仙台防災枠組2015-2030」の和訳、しかも仮訳を読んでもそれが行政レベルではともかく、私たち市民レベルでどう落とし込んでいけるのかという点については、必ずしも明確に記載されているとは言えない。「V. ステークホルダーの役割」のところにわずかに記載があるくらいである。

仙台東北こそ「枠組」に基づいた対策を

「仙台防災枠組2015-2030」にある、世界各国で今後2030年を目標に実践される防災・減災への取り組みについて、「市民としてどのように行動すべきか」に重点を置いて分かりやすく解説している。とりわけ、先ほど挙げた4つの「優先行動」について、それぞれ市民レベルで何ができるかを示した「市民の行動まとめ」が付されており、大いに参考になる。ぜひ一読をお薦めしたい。

市民レベルという点で言えば、この解説冊子が配布された仙台防災未来フォーラムも実に有意義な企画であった。仙台および東北復興や防災・減災に取り組む者などが一堂に会し、それぞれの活動事例を発表し合っただけでなく、情報交換・共有を図ると共に、国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組2015-2030」を踏まえて今後の活動の方向性や課題解決に向けた方策を検討するという内容であった。今回も行政関係者や研究者だけでなく、市民の参加も多く、依然防災に対する意識の高さが表れているように思った。できればこうした企画を今回限りのものにせず、年に一回程度開催して、市民が参加できる場を確保すると共に、そこで得られた知見を内外に発信するということが重要

なのではないだろうか。「国だけでなく個人も「レジリエンス」を」仙台での国連防災世界会議では、災害に対する「レジリエンス」の強化を急ぐという決意も示された。「レジリエンス」というのは元々は物理学の用語で「外力による歪みを跳ね返す力」という意味であるが、災害関連では「回復力」の意味で使われる。つまり、「システムおよびその構成部分が重大なショックによる影響を適時かつ効率的に予測し、吸収し、対応し、あるいはそこから回復することが可能であること」である。

ところでこの「レジリエンス」、心理学の分野では「しなやかで折れない心」「逆境から立ち直る力」といった精神的な回復力の意味で使われている。考えてみれば、災害からの復興には社会システムのレジリエンスももちろん必要であるが、それ以上に個人レベルでのこの心理学で言うところのレジリエンスが求められるのではないだろうか。なんとすればその社会を構成するのは紛れもなく、一人ひとりの個人だからである。

ハードの整備から心のケアへと震災復興における重点事項もその軸足を少しずつ移しつつあるように見える。その重要なキーワードとしてレジリエンスはあ

るのではないかと。繰り返して自然災害に襲われ、その度に立ち上がってきた私たちの先人たちはきっと、強いレジリエンスを持っていたに違いない。震災発生から5年目を迎え、今度レジリエンスを発揮するのは私たちの番である。

執筆者紹介

大友浩平 (おおともこうへい)
奥州仙臺の住人。普段は出版社に勤務。東北の人と自然と文化が大好き。趣味は自転車と歌と旅。
「東北ブログ」
<http://blog.livedoor.jp/anagmas/>



Facebook
<https://www.facebook.com/kouhei.otomo>

第3回の仙台での会議ではこの「兵庫行動枠組2005-2015」をさらに発展させて、今後2030年までの15年間、各国の行動の指針となるもので、期

待される成果とゴール、7つの「グローバルターゲット」、13の「指導原則」、4つの「優先行動」が設定された。

4つの「優先行動」は、①災害リスクの理解、②災害リスクを管理する災害リ

「仙台防災枠組2015-2030」に関して理解を深め、実際に行動に移して

いく責務があると思うのである。

「仙台防災枠組2015-2030」の和訳、しかも仮訳を読んでもそれが行政レベルではともかく、私たち市民レベルでどう落とし込んでいけるのかという点については、必ずしも明確に記載されているとは言えない。

「仙台防災枠組2015-2030」の市民向け解説冊子の発行

市民のための

仙台防災枠組

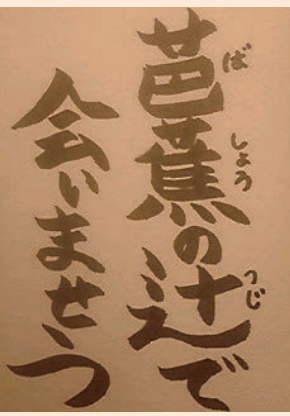
2015-2030

Sendai Framework for Disaster Risk Reduction 2015-2030

わたしたちが優先すべき災害への備え

JCC-DRR

連載
むかしばなし



第三十四話
越えられぬ河

治の生まれた年でもあった。その後キュリー夫人がラジウムなどの新たな放射性元素を発見し、新世紀の若者らは放射能を人類の未来を照らす希望のように教えられて育ってきたのである。

眼下に広がる、蒼く輝く惑星を初めて確認したのだ。来る・近づいている。泉三郎・忠衡は向山を対岸に仰ぐ広瀬川の河原にて烏鬼森の麓・郡山地区に押し寄せた頼朝軍の息吹を、感じ取っていた。

彼の森から、長弓を携えた彼の兵団が続々と現れて川面へどつと走り寄った。するとどうだろう！兵らは弓を捨てて身体を川面に突っ込み、次々に水中へ消えていくではないか。

「おいおい・六守、せいづら一体。」
「兼任兄から借り受けた兵だ。もとは八郎湖のワカサギどもよ・屈強だがすぐ水を欲してな。」
「魚なのだから当たり前だ。『そちらはどんな様子だ、六守。』」

「敵が多すぎるな。今は国衡兄と、兼任兄が頑張っておられるが、じきこへ達する。」
西木戸太郎、大河次郎とこの男は血族だ。八郎湖の王、田沢湖の姫の末裔であり、特に大河兼任は彼ら龍神の力を強く受け継いでいるとされる。

「名取太郎の動きはあるか。」
忠衡は河の流れの中へ一歩踏み出した。すると水が氷のように透き通った背びれや鱗となつて青年の身体を乗せ、河を横断して運んでくるのだった。守継は驚き感心しながら答える。

「国衡兄の首級に宿っておるな。先程、敵に幻を仕掛けたが、雷神に遮断された首だけで何とかするしかないか。飛んでいって頼み付こうか。稲妻に打たれて仕舞になるやもな。」
河田は山伏集団も組織し、人・神問わず内情収集に長

「操縦席」の窓は、右手側左手側に四つずつあったがとても小さかった。喜善が覗き込むと、下界は夕陽に染まる一面の黄金平原。この不思議な乗り物がぐんぐんと高度を上げ、二人が巨人となった時のように頭上に雲が迫っているのがわかった。

「宇宙・だって。これは銀河の果てまで行ける船なのかい。」
「果てまで？まあ、理屈上は行けない事もないが・途中で死ぬだろうな、途轍もなく遠いから。行く用事でもあるのか。」
「聞いてるようで、実のところ心ここにあらず、といった賢治の恍惚とした表情を、喜善は見ている。

「生きて、宇宙を旅できるなんて・・・」
いやしかし、わからない部分が多すぎる。というより、ほとんどが謎ばかりだ。一体、どこから切り出せばいいか？第一、この娘、どういうつもりで素性のわからない男二人を同乗させているのか・・・

「あ、私は佐々木喜善。こちらの方は、宮澤賢治君です。二十世紀の、日本国・岩手県の住人です。」
まずはやはり、自己紹介だろうか。
操縦席の複雑怪奇な機器類の中にいくつかの鏡があり、映り込んだ少女の眼が驚きと好奇心に輝いて二人の男を凝視するのが見えた。

「何だろう？自分たちを知っているというのか。」
「あ、として、貴女は？」
「私は、トヨハ。」
「えっ！？とよ・は？」
面食らう。トヨならば、やっぱり！と思うのだが・微妙に違う。同一人物ではないのだろうか？
「さつきは失礼したな。青龍が自動運転になってたから・傷つけようとしたんじゃないんだ。捕まえて収容しようとしていただけで。」

「あ、あの鎌ですか？」
「普通あそこで外気に触れていたら死んでしまうからな。今この時代だが、二十世紀に届くあたりだ。ニグヴンサイド・地上から十キロメートル上空を飛んでいる東世界の方舟二号船。つまり仮小屋の住人さ。」
二人の古人は目を見合わせただけで、その驚きの事実を反芻する。

「貴女は・空の上に住んでいるのか。」
「今時分、地上に住んでいる人間などいないよ。放射能が強すぎてな。」
フランスの物理学者ベクレルが放射能を発見した一八九六年、それはまさに賢

「何が・あったのだ。」
喜善は、賢治の言葉が異様に震えるのを聞き逃さなかった。娘が答える。
「貴方達は遠い過去の世界の人でしょう。知らない方がいいね・この後、もとの時代へ帰るのなら。」
無論、賢治は理解したよ。うだ。もつとも、昭和三年の人間が文治五年の古人に明治維新の事を話したとしても詮無きと同じように、我々が二世紀先の出来事を知ったからといって、何ら害があるようにも思えない・喜善はそう考えたのだ。

「賢治君・どうしました。」
「近年、放射線の危険性を指摘する声が科学誌などで多くなつていまして・気になつていたので。実は喜善さん、私はあの石に。」
そう言いかけた時、女操縦士が邪魔をした。
「見る！西世界の方舟三号船、ミクマックサイドだ。」
途轍もない高度に達した青龍号の頭上を降り注ぐように星々が圧倒し、その中に明らかに人造である巨大な物体が浮かびあがった。

「いいとも、六守。」
そう答えると、守継の背

「どちらへ行くのかね。」
賢治は前部座席にいる若い娘トヨと同じ顔をした一に尋ねた。
「ニグヴンサイド。すぐ上にある。宇宙な。」

「あ、あの鎌ですか？」
「普通あそこで外気に触れていたら死んでしまうからな。今この時代だが、二十世紀に届くあたりだ。ニグヴンサイド・地上から十キロメートル上空を飛んでいる東世界の方舟二号船。つまり仮小屋の住人さ。」

「貴女は・空の上に住んでいるのか。」
「今時分、地上に住んでいる人間などいないよ。放射能が強すぎてな。」
フランスの物理学者ベクレルが放射能を発見した一八九六年、それはまさに賢

「何が・あったのだ。」
喜善は、賢治の言葉が異様に震えるのを聞き逃さなかった。娘が答える。
「貴方達は遠い過去の世界の人でしょう。知らない方がいいね・この後、もとの時代へ帰るのなら。」
無論、賢治は理解したよ。うだ。もつとも、昭和三年の人間が文治五年の古人に明治維新の事を話したとしても詮無きと同じように、我々が二世紀先の出来事を知ったからといって、何ら害があるようにも思えない・喜善はそう考えたのだ。

「賢治君・どうしました。」
「近年、放射線の危険性を指摘する声が科学誌などで多くなつていまして・気になつていたので。実は喜善さん、私はあの石に。」
そう言いかけた時、女操縦士が邪魔をした。
「見る！西世界の方舟三号船、ミクマックサイドだ。」
途轍もない高度に達した青龍号の頭上を降り注ぐように星々が圧倒し、その中に明らかに人造である巨大な物体が浮かびあがった。

「いいとも、六守。」
そう答えると、守継の背

「何が・あったのだ。」
喜善は、賢治の言葉が異様に震えるのを聞き逃さなかった。娘が答える。
「貴方達は遠い過去の世界の人でしょう。知らない方がいいね・この後、もとの時代へ帰るのなら。」
無論、賢治は理解したよ。うだ。もつとも、昭和三年の人間が文治五年の古人に明治維新の事を話したとしても詮無きと同じように、我々が二世紀先の出来事を知ったからといって、何ら害があるようにも思えない・喜善はそう考えたのだ。

「賢治君・どうしました。」
「近年、放射線の危険性を指摘する声が科学誌などで多くなつていまして・気になつていたので。実は喜善さん、私はあの石に。」
そう言いかけた時、女操縦士が邪魔をした。
「見る！西世界の方舟三号船、ミクマックサイドだ。」
途轍もない高度に達した青龍号の頭上を降り注ぐように星々が圧倒し、その中に明らかに人造である巨大な物体が浮かびあがった。

「いいとも、六守。」
そう答えると、守継の背

「何が・あったのだ。」
喜善は、賢治の言葉が異様に震えるのを聞き逃さなかった。娘が答える。
「貴方達は遠い過去の世界の人でしょう。知らない方がいいね・この後、もとの時代へ帰るのなら。」
無論、賢治は理解したよ。うだ。もつとも、昭和三年の人間が文治五年の古人に明治維新の事を話したとしても詮無きと同じように、我々が二世紀先の出来事を知ったからといって、何ら害があるようにも思えない・喜善はそう考えたのだ。



奥羽越現像氏紹介

一九七〇年山形県鶴岡市生。札幌、東京を経て、仙台に移住。市内のケルト音楽サークルに所属し、あちこち出演し演奏する。フィドル(ヴァイオリン)担当

「何が・あったのだ。」
喜善は、賢治の言葉が異様に震えるのを聞き逃さなかった。娘が答える。
「貴方達は遠い過去の世界の人でしょう。知らない方がいいね・この後、もとの時代へ帰るのなら。」
無論、賢治は理解したよ。うだ。もつとも、昭和三年の人間が文治五年の古人に明治維新の事を話したとしても詮無きと同じように、我々が二世紀先の出来事を知ったからといって、何ら害があるようにも思えない・喜善はそう考えたのだ。

「賢治君・どうしました。」
「近年、放射線の危険性を指摘する声が科学誌などで多くなつていまして・気になつていたので。実は喜善さん、私はあの石に。」
そう言いかけた時、女操縦士が邪魔をした。
「見る！西世界の方舟三号船、ミクマックサイドだ。」
途轍もない高度に達した青龍号の頭上を降り注ぐように星々が圧倒し、その中に明らかに人造である巨大な物体が浮かびあがった。

「いいとも、六守。」
そう答えると、守継の背

「何が・あったのだ。」
喜善は、賢治の言葉が異様に震えるのを聞き逃さなかった。娘が答える。
「貴方達は遠い過去の世界の人でしょう。知らない方がいいね・この後、もとの時代へ帰るのなら。」
無論、賢治は理解したよ。うだ。もつとも、昭和三年の人間が文治五年の古人に明治維新の事を話したとしても詮無きと同じように、我々が二世紀先の出来事を知ったからといって、何ら害があるようにも思えない・喜善はそう考えたのだ。

「賢治君・どうしました。」
「近年、放射線の危険性を指摘する声が科学誌などで多くなつていまして・気になつていたので。実は喜善さん、私はあの石に。」
そう言いかけた時、女操縦士が邪魔をした。
「見る！西世界の方舟三号船、ミクマックサイドだ。」
途轍もない高度に達した青龍号の頭上を降り注ぐように星々が圧倒し、その中に明らかに人造である巨大な物体が浮かびあがった。

「いいとも、六守。」
そう答えると、守継の背

「何が・あったのだ。」
喜善は、賢治の言葉が異様に震えるのを聞き逃さなかった。娘が答える。
「貴方達は遠い過去の世界の人でしょう。知らない方がいいね・この後、もとの時代へ帰るのなら。」
無論、賢治は理解したよ。うだ。もつとも、昭和三年の人間が文治五年の古人に明治維新の事を話したとしても詮無きと同じように、我々が二世紀先の出来事を知ったからといって、何ら害があるようにも思えない・喜善はそう考えたのだ。

「賢治君・どうしました。」
「近年、放射線の危険性を指摘する声が科学誌などで多くなつていまして・気になつていたので。実は喜善さん、私はあの石に。」
そう言いかけた時、女操縦士が邪魔をした。
「見る！西世界の方舟三号船、ミクマックサイドだ。」
途轍もない高度に達した青龍号の頭上を降り注ぐように星々が圧倒し、その中に明らかに人造である巨大な物体が浮かびあがった。

「いいとも、六守。」
そう答えると、守継の背

次回予告

まさかの賢治さん宇宙へ！過去よりも、地球へ帰ってこれるのだろうか？昔『ガンダム』で既に使われてたの知って驚いた！！

シリーズ 遠野の自然 「遠野の啓蟄」 遠野 1000 景より



斜陽と解氷

東京圏では、三月になった途端、梅もいっせいに開花し、急に気温も二十度を越えて、五月の陽気になったかと思いきや、一転して冬に逆戻りして、再び雪が舞うかもしれない一日を迎えたりして、落ち着かないこの頃である。
例年のことでもあり、覚

悟してはいるが、日々の気温と気候の変動に身体を調整して行くのが大変な三寒四温の時節を迎えた。
無意識下では、この変動



早春りんご園からのお六

を調整するのにかなりの体力を消費しているにちがいない。何となく疲れを感じる。
*

*



風囲い

昨年雪の到来が遅れた遠野であるが、三月初めにはまだ雪が残り、また新たに雪も降っているようだ。
この季節は二十四節季で



薄陽

は「啓蟄(けいちつ)」にあたるが、遠野の啓蟄は二分先のようなのである。
むずかしい漢字の「啓蟄」であるが、意味は、土

中で冬眠していた虫たちが、穴をひらいて地上に出てくるころを指す。
*
当然ながら、今回号の写



積雪の朝



のぞき

真も雪の情景が多い。まずは「斜陽と解氷」。沼に張った氷が融けはじめている。確実に春は近づいているのだ。
「早春りんご園からのお六」も、何となく春の匂いが伝わってくるようだ。

「金ヶ沢稲荷神社(村兵衛稲荷)」は、陽光を浴び、これから雪が融けて行く前



金ヶ沢稲荷神社(村兵衛稲荷)

とはいえ、「薄陽」や「積雪の朝」のように、陽が落ち、雪が降れば、寒い遠野が戻ってくる。「風囲い」もまだ外せない。
「金ヶ沢稲荷神社(村兵衛稲荷)」は、陽光を浴び、これから雪が融けて行く前

であろうか。そんな中で、「のぞき」の三匹の猫が愛らしい。カモもつがいとなつて、恋の季節に入ろうとしているようだ。
厳しい冬が去りつつある遠野の景色である。



カモ



東北大学で温暖化研究を行う明日香壽川教授招いて勉強会開催

石巻に新しい復興の風を

若者が中心となって立ち上げたNPO法人が新しい手法で風力発電所開発に挑戦する！
-NPO法人STELAのプロジェクトのレポート6-

私が環境問題に関心を持つようになったのは、子供の頃に森林伐採によって森を追われるオランウータンという記事に衝撃を受けたことがきっかけである。

中学に入学した頃に新しい言葉を知る。地球温暖化と呼ばれるものだ。それまでは酸性雨や砂漠化、水質汚染などのある意味局所的な問題ばかり取り上げられ、その理不尽さの子供ながら胸を痛めたが、温暖化に関してその影響の範囲はこの星全体で、かつ予想される影響も甚大であり解決には人類の総力を挙げて取り掛かる必要がある。自然エネルギーを開発していくことは脱原子力だけではなく、震災前は特に温

暖化に対する有効手段としての意味合いが強かった。京都議定書の議長国である我が国も本来であれば意欲的な政策を立てねばならない立場であるが現状は最も温室効果ガスを排出する石炭火力発電所の開発ラッシュの時代を甘受している。

専門家を招いて勉強会を開催

温暖化は知らぬ間に解決したのか。それとも日本が取り残されているのか。実際にその場所に赴いて国際的な動きを研究し、多くのパブリックコメントを執筆している東北大学の明日香壽川教授をお招きして昨秋、勉強会を開催させて頂いた。

海外での温暖化に対する市民運動は大変に勢いがあり、近年では数十万人規模のデモが行われている。温暖化とエネルギー問題は深い関わりがあり、文字通り切っても切り離せない。私が温暖化に対するアクションとして風力発電を選んだのも石炭火力等の発電所由来の温室効果ガスが実に3割以上を占めており、数%〜1割程度の家庭部門の対策では不十分であるからである。

震災前に叫ばれていた原子力推進による温暖化対策は震災の事故により危険性が明確となり、自然エネルギー開発への期待が更に大きくなった。私が大学院時代に研究を



低炭素社会構築委員の様子。は県内大学及び事業者で成され、多方面分野に精通する有識者を交えて毎回活発議論が展開され。

行い、数十年は国内で実現は難しいと言われていた洋上風力発電の急速な発展はその裏付けであると感ずる。勉強会は多忙を極める明日香教授のご厚意により無償で行って頂き、貴重な知識を分けて下さった。この場を借りて改めて御礼を言わせて頂きたい。多様に存在する自然エネルギーを如何に開発するか。実現には温暖化の解決然り、それには多様な知識と経験の集約が必要である。

県内外の有識者による委員会へ参加

大内秀明東北大学名誉教授を議長とする低炭素社会構築委員会は仙台を流れる広瀬川水系に注目し、その豊かな自然エネルギーを活

用する可能性を主に検討する委員会である。委員は県内の様々な大学の教授や事業者、そして福島県にて温泉熱と小水力を使った発電事業を成功させた(株)元気アップ土湯の千葉訓道氏で構成される。私はオプザーバーという立場でこちらの委員会に参加させて頂いており、別サイトでの成功例や失敗例について様々な視点の専門家の皆様の意見交換から多く学ばせて頂いている。

電力システムの専門家に意見を伺う

自然エネルギーには化石燃料を使わない点や、多様な開発の可能性と資源の十分なポテンシャル等メリットがクローズアップされることが多いが、解決を要する問題も少なからず抱えており、未だ技術開発の余地は多大にある。

その中で風力や太陽光は変換対象となる自然エネルギーの不安定性が出力に顕著に影響を与えるものであり、電力システムを通じて設備全体に悪影響を及ぼす可能

性があることは以前から懸念されていた。事実として北海道電力管内では潤沢な風資源があるにも関わらず開発が限定されており、近年の太陽光発電の大量導入により系統保護の名目で全国的に接続制限が行われ、太陽光だけでなく自然エネルギー開発全体が足止めを受けている。現状で発電事業は電力系統への接続無しには難しい。今後の自然エネルギーの開発のあり方について我々のプロジェクト説明会で参加者にお伝えしているが、その核となる電力系統の問題について専門家である東北学院大学の呉国紅教授に助言を求めた。

私の恩師でもある呉教授は、国内における電力系統工学及び自然エネルギー全般の専門家であり、昨年はアメリカにおいて世界最先端の研究に携わっている。当プロジェクトには主に開発の展望にあたる多種多様なエネルギー開発により実現するマイクログリッドを中心にその問題点と可能性について助言を頂いた。



電力系統工学の専門家である東北学院大の呉国紅教授

イベント紹介

4月2日に東北大学にて「自然エネルギーで地域を変えよう」をテーマに東北で活動している団体が集まり、パネルディスカッションを行うイベントに招待頂いた。基調講演は国内で初めて市民出資で風力発電所開発を成功させた立役者である認定NPO法人環境工

来月号の記事

今号は予定を変更して記事執筆させて頂いた。来月号では当初予定していた東北農林管弦楽団の定期演奏会の報告と被災地を支援してくださっているロンドンの音楽家との関わりについて執筆させて頂く予定である。

寄稿者プロフィール

東梅祐也(とうばいゆうや)石巻市出身。エンジニアを志し、石巻工業高校電気科、東北学院大学電気情報工学科、同大学大学院にて修士号を取得。現場での仕事に従事するために博士課程を中退する。幼い頃から動物が好きで、将来は環境問題の解決に貢献できる仕事につきたかったが、徹底した現場人間のため、大学院時代に社会問題の現場を肌で感じるために環境問題・戦争・貧困をテーマに地球一周の一人旅へ。帰国後は反原発、植林、ゴミ拾い、反戦デモにチ



第45号 ネットアンケート集計結果

【東北被災地に『バーチャル村』を建設することについて】

NO.	質問と選択肢	回答数
①	住所	
	(1) 東北被災地	5
	(2) 被災地以外の東北	3
②	性別	
	(1) 男性	10
	(2) 女性	1
③	年齢	
	(1) 20歳未満	0
	(2) 20歳以上40歳未満	1
	(3) 40歳以上60歳未満	7
④	『バーチャル村』を知っていますか？	
	(1) 名前は聞いたことがある	4
	(2) 詳しく知っている	1
	(3) 知らない	6
⑤	本格的支援に被災地への移住は必須ですか？	
	(1) やはり移住すべき	0
	(2) 移住する必要はない	6
	(3) 半移住くらいは必要だ	2
⑥	被災地での『バーチャル村』企画に興味はありますか？	
	(1) 興味ある	5
	(2) あまり興味はない	2
	(3) 何ともいえない	4
⑦	『バーチャル村』の具体的なアイデアがありますか？	
	(1) 思いつかない	3
	(2) アイディアは考えられる	4
	(3) 何ともいえない	4
⑧	『バーチャル村』は人口減少の歯止めになると思うか？	
	(1) 歯止めになると思う	4
	(2) 関係ない	4
	(3) 何ともいえない	3
⑨	被災地での『バーチャル村』は復興に役立つか？	
	(1) 役立つ	3
	(2) 役には立たない	2
	(3) 何ともいえない	6
⑩	『バーチャル村』を被災地に建設することに賛成か？	
	(1) 賛成	3
	(2) 反対	1
	(3) 何ともいえない	6
	(4) いずれでもない	1



やはり六年目以降の復興像が見えないのか

今回は「東北被災地に『バーチャル村』を建設することについて」。この三月で満五年になった。当然ながら、今後の復興は従来とは違ったものになる必要がある。ではどういった形かという点については、あまり具体的な姿がない。そこで、試案として『バーチャル村』を創設し、そこを新たな復興の起点としたいと考えた。回答者数は十一名。

⑤ 「本格的支援に被災地への移住は必須か」は、移住は必要ないが過半数。

⑥ 「被災地での『バーチャル村』企画に興味はあるか」は、半分近くが「興味あり」。

⑦ 「『バーチャル村』の具体的なアイデアがあるか」は、「アイデアは考えられる」が、具体的には「思いつかない」のだろうか。

⑧ 「『バーチャル村』は人口減少の歯止めになると思うか」は、「なる」と「ならない」が同数。

⑨ 「被災地での『バーチャル村』は復興に役立つか」も同様に「役立つ」と「役立たない」がほぼ同じ。

⑩ 「『バーチャル村』を被災地に建設することに賛成か」で最多が「何ともいえない」で半分以上。

復興環境厳しくなる中で、新たな復興の姿が見えない実態が見えて来そうなアンケートの印象である。

編集後記

この三月十一日、震災発生満五年、またもやマスメディア各社は特集を組んで、これでもかと洪水のような番組編成である。番組全部を見たわけではないが、糸井重里氏のコメントに救われる思いがした。被災者や被災地も、こうした番組を見たら、自分たちがスポイルされていると感じることだろう。要するに、「実態」から大きく「ズレ」ているということだ。当新聞は、当然ながら、特集など念頭にない。むしろ、これまであまり取り上げられなかった震災の側面を取り上げた。一面と二面に、震災孤児と震災遺児の問題を取り上げた。

ぜひこの記事を読んでいただき、「実態」を知って欲しいと思う。

記事にある悲惨な事件には心が痛む。子供たちは、震災被害をうまく言えない言えないからといって、被害が小さいことはない。大人になれば、冷静に、客観的に震災被害を受け止めることができる。

しかし、子供たちはそれができない。ましてや親という最大の後ろ盾を失う子供たちは、世界が消滅するのに等しいだろう。

筆者の高校の同級生であるこの記事の寄稿者に、今回の記事提供を感謝したいと思う。

「東北を世界に！」プロジェクト募集

- プロジェクト募集要領
- ① 東北の復興、活性化、再興を目的としたプロジェクト企画であれば、何でも可
- ② 応募資格は特に定めず、被災地、被災地以外の居住も問わず、国籍・年齢・性別を問わず
- ③ 企画書のようなものがあれば可---形式自由(プロジェクト名、プロジェクト期間、目的、どうやって実現するかの手段、仲間などを明記していただきたいと思ひます)
- ④ 〆切はとくに設けません

「東北を世界に！」プロジェクト募集

- 連絡先/企画提出先
(郵送) 〒207-0005 東京都東大和市高木3-315-1 ホームタウン宮前2-2 電子タプロイド新聞【東北復興】宛
(メール) yumuyu@wj8.so-net.ne.jp
- ご提案いただいた企画については、当新聞で責任をもって検討させていただいた上で、企画開始に向けてのしかるべき方法・手段をご提案するなり、企画実現のための仲間を募ってまいりたいと考えております。また、当新聞でご紹介させていただきたいと思ひます。(氏名公表か非公表かはご相談)
- たくさんのご提案をお待ちしています